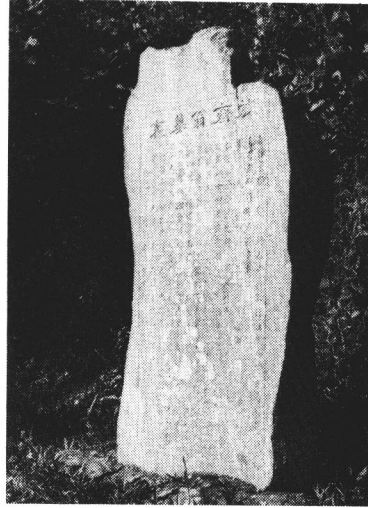


放齋先生の碑

放齋先生の碑



月館字川越の山腹、「えぼし石」のわきの僅かな平地に高さ一五五センチの「放齋翁墓標」が建てられ、下記の文が刻まれています。放齋翁は、月館菅野氏の一族であるとされていますが、その系譜は明らかではありません。

ん。翁は多年書画、漢籍の師として多くの弟子を指導していました。この碑は弟子たちによって建立された頌徳碑であります。高い教養を持つ文化人でありながら意の赴くままに振舞った翁の面目を伺い知ることができます。

察館菅脩道録厥郷人放齋翁行狀使人持來曰翁我同族自髫年好作字及長多求本絕諸名家墨蹟日夜套畫已足為人師尚且勉焉弗措一鄉子弟受傲其字樣者十屈八九文政辛巳三月十四日病歿年六十四及將建厝厥徒共議曰三春鹿山先生人莫不識假其文章筆跡俾我翁傳不朽不可也乃告脩道錫下筆幸甚又云翁晚節玩鑑杓而無骨董古器奇癖之好唯奇托以為避煩之計而已又作俳諧聯句一味真率任情而已然往往與理契或時曳筇獨遊山水適有得意句輒高吟大笑人以為狂而翁益自嘉如有所得然益庶乎古畸人獨行之操矣不識併錄可傳厚否也彊也之與翁不相識而知脩道未嘗欺人者審矣則叙厥言以為之銘曰

物之鳴 因不平 翁吟行 抑何聲